

## 【2024年6月新着図書案内】

# 情報コーナーに新しい図書が25冊入りました！

書名	著者名	出版社	発行年	分類	内容
『女性と図書館 —ジェンダー視点から見る過去・現在・未来』	青木玲子、赤瀬美穂著	日外アソシエーツ	2024	010.2ア シロ	明治期から戦前まで存在した図書館の婦人閲覧室、男女共同参画センター・ライブラリーの歴史、理念、活動などを紹介。女性と図書館に関する現状の課題から未来への提案につなげる。
『「烈女」の一生』	はらだ有彩著	小学館	2024	280.4ハ アオ	マリー・キュリー、フリーダ・カーロ、人見絹江など1900年前後に生きた20人の女性たち。残された手紙、作品、インタビュー等に表れる感情にフォーカスし、その人生を紐解く。
『津田梅子 —女子教育を拓く』	高橋裕子著	岩波書店	2022	289.1タ アオ	わずか6歳で日本初の女子留学生としてアメリカに派遣された津田梅子。留学経験を軸に、その後どのようにして自身の夢を実現させていったのか。内面や思索にも迫りつつ、足跡をたどる。
『ケアの倫理 —フェミニズムの政治思想』	岡野八代著	岩波書店	2024	311.1オ アカ	女性たちの多くがケアを担わされてきた社会・政治状況を批判することから生まれたケアの倫理を、フェミニズム思想の展開の中に位置づけ、ケアに満ちた新しい社会や政治を展望する。
『新おとめ六法』	上谷さくら著	KADOKAWA	2024	320カ アカ	「恋愛」「SNS・インターネット」「くらし」「しごと」といった6つのシーンで、多くの人が遭遇する可能性のあるトラブルをライフステージごとにまとめ、法的に解説する。
『白い拷問 自由のために闘うイラン女性の記録』	ナルゲス・モハンマディ著 星薫子訳	講談社	2024	326.9モ アカ	イランの刑務所で行なわれている独房拘禁。2023年にノーベル平和賞を受賞した人権活動家が、獄中手記と不当に収監された女性たちへのインタビューから、非人間的な刑罰反対を訴える。
『老後の家がありません —シングル女子は定年後どこに住む？』	元沢賀南子著	中央公論新社	2024	365.3モ キン	「アラ還・独身・子なし・フリーランス」という著者が、老後に住む家を確保するために奮闘しながら、「単身女性の老後の家」について考えていく。
『〈共働き・子育て〉世代の本音 新しいキャリア観が社会を変える』	本道敦子、山谷真名、 和田みゆき著	光文社	2024	366.7ホ ミズイロ	その前の世代とは異なるキャリア観・子育て観を持つミレニアル世代への調査で得られた、仕事と子育てを両立させている事例を多数紹介。両立に悩むカップルや企業側にもヒントになる本。
『非正規という働き方と暮らしの実像 —ジェンダー・法制・労働組合を問い直す』	森ます美、本田一成、 緒方桂子他編	旬報社	2024	366.8モ ミズイロ	調査結果などを通して、非正規雇用で働く人たちの働き方と暮らしの実像に迫り、問題点を解決する方策として、政策・制度上の課題と労働組合の役割を提言する。

書名	著者名	出版社	発行年	分類	内容
『分断されないフェミニズム ほどほどに、誰かにつながり、生き延びる』	荒木菜穂著	青弓社	2023	367.1ア ミドリ	女性同士の分断など、女性にかけられた呪いを解くにはどうすれば良いのか。フェミニズムの場での活動と思索をもとに、女性同士の関係性を再考しようとする評論。
『女性はなぜ男性より貧しいのか?』	アナベル・ウィリアムズ著 田中恵理香訳	晶文社	2024	367.1ウ ミドリ	老後貧困、住宅危機、賃金格差など、日本の女性の現状にも通じるような様々な問題を取り上げ、女性がお金と資産の平等を得られない理由を明らかにする。
『Q&A DV被害者サポートブック』	配偶者暴力(DV)問題 研究会編著	ぎょうせい	2023	367.1ハ ムラサキ	改めて女性の人権に焦点を当て、DV防止法や支援策などDVを考え理解するうえで役立つ情報を網羅した、被害者・支援者・すべての関係者のためのQ&A集。
『女性の階級』	橋本健二著	PHP研究所	2024	367.2ハ ミドリ	本人の所属階級に加え、就業や配偶者の有無などの要因から男性より複雑化する女性間の格差。各階級を分析し、格差の縮小と貧困を解消するためには何が必要かを考察する。
『ジェンダー史10講』	姫岡とし子著	岩波書店	2024	367.2ヒ ミドリ	女性史・ジェンダー史の誕生の経緯とその展開、また、女性史・ジェンダー史研究が、様々なフィールドで歴史の見方を変え、歴史学に刷新をもたらしてきたかを述べる。
『日本女性のライフコース 一平成・令和期の「変化」と「不変」』	樋口美雄、田中慶子、 中山真緒編	慶応義塾大学出版会	2023	367.2ヒ ミドリ	「消費生活に関するパネル調査」をもとに、過去30年間における女性の暮らしや仕事、収入等の変化やその背景、さらには制度・政策が及ぼした影響について明らかにし、検証する。
『母にはなれないかもしれない 一産まない女のシスターフッド』	若林理央著	旬報社	2024	367.2ワ ミドリ	産まない・産めない・産みたくない…。インタビュー、対談、エッセイにより、それぞれの女性にとっての「産まない」を綴る。
『60歳からの生き方図鑑 いくつになっても「今がしあわせ」と 言える女性でありたい』	百田なつき編著	グラフィック社	2024	367.7モ ピンク	新たな挑戦、自分らしい働き方や暮らし方などをテーマに、60歳からいきいきと人生を楽しんでいる51人を紹介する。
『いちばんやさしい アロマンティックやアセクシュアルのこと』	三宅大二郎、今徳はる香、 神林麻衣、中村健著	明石書店	2024	367.9ミ オレンジ	アロマンティック(他の人に恋愛感情を抱かない)とアセクシュアル(他の人に性愛感情を抱かない)について、当事者の声などをまじえてやさしく伝える。
『わたしは13歳 今日、売られる。 ネパール・性産業の間から助けを求める 少女たち』	長谷川まり子著	合同出版	2024	368.4ハ オレンジ	年間7000人もの貧しいネパール人少女が、インドへ人身売買されている。被害の現状とともに、女の子たちを支援するプロジェクトの活動などについても報告する。
『災害と性暴力 一性被害をなかったことにしない、 させないために。』	Nursing Today ブックレット編集部編	日本看護協会出版会	2023	368.6ナ オレンジ	過去の大震災における性暴力。同じことを繰り返さないために何ができるのかを考えるために、調査報告やメディアでの伝えられ方、ジェンダー視点の避難所作りなど多面的な問題に言及する。
『困難を抱える女性を支えるQ&A 女性支援法をどう活かすか』	戒能民江、堀千鶴子編著	解放出版社	2024	369.2カ ピンク	今年4月に施行された「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」。その意義やねらい、また、民間団体や行政などによる実際の支援の現場から、女性の現状と女性支援について考える。

書名	著者名	出版社	発行年	分類	内容
『子どもと大人の福祉制度の歩き方 流れと対応がチャートでわかる!』	浜内彩乃著	ソシム	2024	369.2ハ ピンク	大人編と子ども編に分け、福祉制度の全体像をチャートで示して解説する。当事者やその家族、何より支援に携わる人たちに役立つ一冊。
『働く女たちの肖像』	永澤桂著	現代書館	2024	723.3ナ チャイロ	17～19世紀、フェルメール、ドガ、ロートレックなどにより主にフランスで描かれた絵画において、女性の労働が男性の視点からどのように表象されたのかを読み解く。
『結婚移住女性のエスノグラフィー 地域日本語教育の新しい在り方』	福村真紀子著	早稲田大学出版部	2023	810.7フ チャイロ	結婚移住女性たちのエスノグラフィーなどをもとに、生活者のLifeを支える〈ことばの学び〉を促すための新たな地域日本語教育の在り方を論考する。
『キツネくんのひみつ 一ゆきをだしてはなそう』	カロリーヌ・リンク作 ザビーネ・ビュヒナー絵	誠信書房	2023	Eリ ☆	信頼していたお隣さんによる関係性を利用した巧みな口止めによって「わるいひみつ」(性被害)を打ち明けられなかったキツネくんが、適切なサポートを受けて被害を相談し、笑顔を取り戻すまで。